

UNSCEAR 推定甲状腺吸収線量と本格検査（検査 3 回目）における悪性ないし悪性疑い発見率との関連（横断調査）

表 1 震災時 6～14 歳の対象者における UNSCEAR 推定甲状腺吸収線量（最大値）^{*1}と本格検査（検査 3 回目）における悪性ないし悪性疑い発見率との関連（横断調査）

	20mGy未満	20-25mGy	25-30mGy	30mGy以上
女性(%)	49.4	50.3	49.7	49.9
一次検査受診時年齢(平均年齢)	15.3	14.9	14.9	15.5
検査年度受診者割合(%)				
2016年度	27.7	95.0	96.5	23.1
2017年度以降	72.3	5.0	3.5	76.9
検査間隔 ^{*2} (%)				
先行・本格1回目検査未受診	0.5	0.2	0.3	0.6
2年未満	62.4	61.7	31.9	23.9
2年以上2.5年未満	28.6	32.8	62.4	59.7
2.5年以上	8.4	5.2	5.4	15.8
悪性・悪性疑い発見数	8	5	2	12
発見率(10万人あたり)	22.3	18.0	7.9	47.2

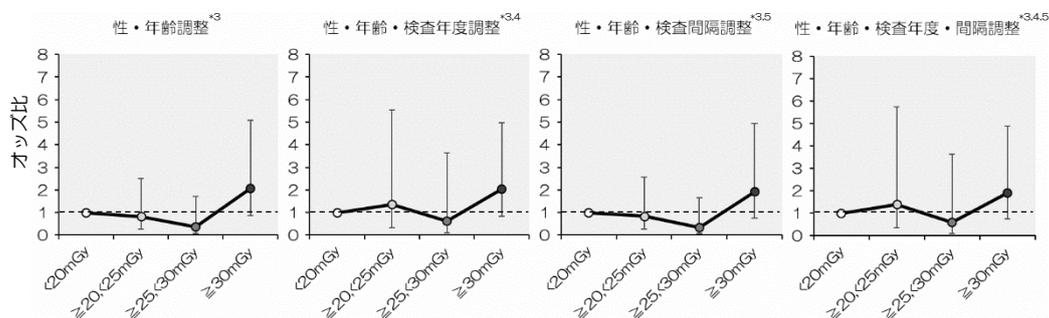
*1:UNSCEAR 2013 Report, Annex A, ATTACHMENT C-16, Table C-16.2 の推定甲状腺総吸収線量(Total)および ATTACHMENT C-18, Table C-18.5 の推定甲状腺総吸収線量(Total dose)を使用。同一の市町村で複数の推定線量が提示されている場合は最大値を使用。各市町村別の被ばく線量を個人に当てはめた上で、被ばく線量を 4 群に分類。

*2:本格検査（検査 3 回目）一次検査受診日と、その直近に受診した検査（先行検査または本格検査（検査 2 回目））の一次検査受診日との間隔。

※震災時県内居住者に限る。

※令和 2 年 3 月 31 日時点のデータによる。

図1 UNSCEAR 推定甲状腺吸収線量（最大値）*1により分類した震災時6-14歳の対象者における悪性ないし悪性疑い発見のオッズ比*2（垂直方向の直線は95%信頼区間を示す）



*1: UNSCEAR 2013 Report, Annex A, ATTACHMENT C-16, Table C-16.2 の推定甲状腺吸収線量(Total)および ATTACHMENT C-18, Table C-18.5 の推定甲状腺総吸収線量(Total dose)を使用。同一の市町村で複数の推定線量が提示されている場合は最大値を使用。各市町村別の被ばく線量を個人に当てはめた上で、被ばく線量を4群に分類。

*2:オッズ比は<20mGy 群を対照としたロジスティック回帰分析により算出。

*3:年齢の調整には本格検査（検査3回目）の一次検査受診時年齢を連続量として使用。

*4:検査0年度の調整には本格検査（検査3回目）の受診年度を、2016年度、または2017年度以降の2カテゴリとして使用。

*5:検査間隔の調整には本格検査（検査3回目）とその直近検査の一次検査受診日の間隔（2年未満、2年以上2.5年未満、2.5年以上）、または本格検査（検査3回目）のみ受診の計4カテゴリとしたものを使用。

（参考）市町村別線量

